

医療用かつら技術者



あるあるネタ

- ・初対面のお客様には、まず心の距離を縮める会話から入るのが当たり前になっている。
- ・ウィッグを渡すとき、自分よりも家族が泣いてしまうことがある。
- ・「シャンプーしてもいいですか？」と聞かれたとき、「ウィッグのですか？ ご自身のですか？」と真顔で確認してしまう。

初期の失敗

新人の頃、通気性とフィット感を重視しすぎた結果、ウィッグの見た目に少し違和感が残ってしまいました。その方の「でも気持ちは伝わったよ」という言葉に救われ、もっと丁寧な設計を心がけるようになりました。

職業病

どんな頭の形でも瞬時にサイズとバランスが測れるようになってしまいます。帽子売り場で他人の頭囲を測りたくなる衝動との戦いです。

健康問題

細かい作業の連続で、目の疲れ、手指の痛み、肩こりが起きやすいです。精神的にも気を遣う職場環境のため、時には心の疲れを感じることもあります。

その職業に就いている人を讃える

「あなたは“癒しを編むセラピスト”のような人ですね。失われた自信や笑顔を、そっと形にして手渡すその仕事は、美容でもなく、医療でもなく、まさに心のケアです。頭にぴたりと寄り添うウィッグに、あなたの優しさと技術が詰まっているからこそ、多くの方がまた日常に戻っていただけるのです。どうか指先と心を休めながら、これからも“再び前を向く勇気”を編み続けてください」